

(1) 単元名：植物のくらしとなかま

(2) 本時の目標：植物のからだのつくりについてまとめ、身近な植物（野菜）のどの部分を食べているか考察できる。

平成26年6月13日(金)、国頭中学校自主公開授業研究会。

国頭中学校「学びの共同体」3年目、午前中の3・4校時に全教室の公開授業と午後の提案授業（3年社会科）のセットで実施された。

わたしは、3校時のN・K先生（1年理科）の授業に1時間張り付かせてもらいました。N・K先生は今年4月に赴任して来たばかりの教師である。「学びの共同体って何？」当たり前の疑問をもって、同僚や生徒達と日々向き合いながら、4月からの校内研や互見授業でいろいろ「学び合う授業」について疑問を投げかけ、時にはアドバイスを受け入れ、本時の佐藤先生の訪問授業に挑戦である。これまでの自分の授業から未知の世界の授業への挑戦でもある。…もがく教師は美しい！

1年A組の担任として、一人の人間としての温かさや、理科専科教師のポリシーを感じる楽しく、柔らかく、深い学びの授業づくりを拝見させていただきました。「生徒たちに頑張ってもらいたい。」そんなN・K先生の気遣いがほんとによく見える授業でした。



10:30 【本時の課題提示】前時の学習の確認 → 日常野菜の写真 → タマネギ実物の提示



写真①



写真②



写真③

写真①、授業者が植物のからだのつくりの基本を確認する。写真②、日常食べている野菜の写真を見せながら、「皆さんが食べているところは、それぞれの野菜のどの部分になるでしょう。」ゴーヤー、大根、アスパラ、レタス等の写真を見せる。写真③、本時の課題となるタマネギの実物が出てきた。完全に生徒は釘付けになる。授業者の言葉と表情が実に柔らかい、実に微笑ましい生徒とのやりとりである。

10:38 【第1次 生徒各々の予想を黒板に示す】

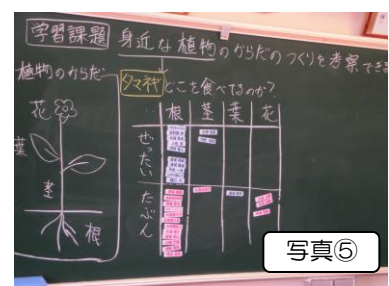
授業者の話を聴き、タマネギの第1回目の予想を黒板に示す。いわゆる現時点では「勘」で答えるしかない。「根・茎・葉・花」どちらでしょう。

写真④、黒板に提示に行く前に、ぶつぶつ対話が交わされている。自分の経験や、ちょっとした知識を振り絞って予想する。「土の中よね…」、「根っこもあるよね…」、「実ということは…」、「茎につながっていくよね…」、「大根は…？人参は…？」等である。勝手に訊き合っている。違う意見にはすぐに「なんで」の問いが投げられる。きき合うに躊躇しない。うれしい！小学校の先生方にぜひ見せてあげたい風景である。小学校7校（うちへき地校5校）の子ども達が、何の遠慮もなく対話による交流を図っている事実と安心する。黒板の前にきてもきき合っている。

写真⑤、第1次予想の結果である。「ぜったい」と「たぶん」が設定されていることに授業者の心づかいがうかがえる。ほとんどの子がこの時点で「根」を選択している。



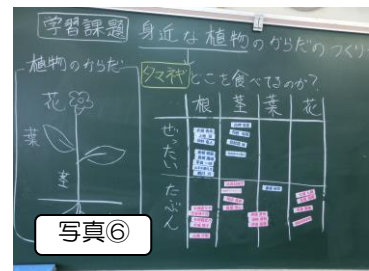
写真④



写真⑤

10:44 【ワークシート配布】 それぞれの考えをグループで交流させる。→ 学び合いを仕組む
 第1次の予想を終えて、授業者はワークシートを配る。「仲間と意見を交流させて、自分の結論の理由まで書いてください。」どのグループも学び合いが一気に加速する。ボソボソ、ブツブツ。「なぜ?」「分からない」を訊き合っている。素晴らしいクラスである。分からないことに遠慮がない。訊くことに躊躇しない。一人もとり残されない。

10:47 写真⑥、グループで学び合った結果、数名の生徒の結論が動いた。(2次判断)
 生徒たちは、迷い、もがく。仲間との対話が思考を揺さぶる。「むう~わからん」「なんで~?」
 授業者は、椅子に座りニコニコと生徒の対話や動きを見守っている。・・・それでいい。



写真⑥

10:55 【実物のタマネギが渡された】

モノは確実に生徒の思考を深め促進させる。なぜか全グループがタマネギの皮をむき始めた。

なんと授業者は、次に半分に切ったタマネギを準備していたのである(写真⑦)。



写真⑦

半切のタマネギでさらに対話が加速する。授業者の準備とモノを出すタイミング、授業デザインに脱帽である。みんな夢中になって語っている。黒板の予想も何度も動く。

圧巻! 4月に来たばかりの教師とは思えない授業デザインである。まさかの半分切ったタマネギの登場に私もうれしい! 生徒たちはきっと半分切ったタマネギを見たくなるだろうと予想していた授業者の読みの深さが光る。全くその通りである。生徒たちは目をこすりながらもモノと対話から離れられない状況である。悩み、もがく姿がほんとに美しい。



11:04 【実物を手にさらに・・・むう~】



生徒たちは、実際のタマネギをいじりながら、さらにまよう。予想の2次判断からもさらに生徒たちがもがいている様子分かる。もっと聴き合い、もっと考える必然性がある。

11:10 【ヒントの写真を提示】 写真を提示する



言葉や説明は一切なし...だからいい。「分かった!」「やっぱり!」「むう~」この時点で自信のある生徒は見受けられない。

11:12 【ホワイトボードを配布】 グループの判断を決めるように指示した。



授業者は、授業終了までに3回の段階でタマネギの食べているところはどこですか?と判断機会を提供した。生徒たちは夢中になって訊き合い僕なり、私なりの判断を下した。しかし、考えれば考えるほど、「分からない」になっていた結局最後は「勘」が頼りになった。最後にもう一度「これでいいですか?」と生徒に確かめて授業は終わった。生徒たちにとっては何とも煮え切らない授業であったが、最後の判断までにどれほど思考したのだろうか。ちょっといたずらな授業者のおかげで、生徒たちの思考と「分かりたい」思いは最高に達した。「答えは次回に」さらに生徒を奮起させる。次回を待たずにインターネットや図書館でむきになって調べている生徒たちの楽しい姿が・・・私には予想された。



N・K先生お見事でした。「授業者が誰よりも授業を楽しんでいる。」そんな姿を拝見させていただきました。生徒たちのもがく姿もほんとに素敵でした。授業者の授業センス...これに尽きるかな! 国頭学びの会ゆい